

「景気動向指数」における「毎月勤労統計調査」再集計値対応について

「景気動向指数」においては、厚生労働省「毎月勤労統計」から以下の3指標を算出に用いています。

一致系列：C4 所定外労働時間指数（季節調整値、調査産業計、30人以上）

遅行系列：Lg2 常用雇用指数（原数値の前年同月比、調査産業計、30人以上）

遅行系列：Lg7 きまって支給する給与（指数、名目、季節調整値、製造業、30人以上）

「景気動向指数」11月分改訂（1/24公表）では、上記3指標について、当面の対応として平成24年1月分以降の再集計値と平成23年12月分以前の既存の公表値を単純接続^{1,2}していましたが、景気動向指数研究会委員の意見を踏まえて、あらためて接続方法を検討した結果、「景気動向指数」平成30年12月分速報（2/7公表）からリンク係数を用いた接続方法（下記参照）とすることとしました。

【接続方法】

平成24年1年間分のデータ³で算出した以下のリンク係数を、平成23年12月以前の値に乗じる⁴。

$$\text{リンク係数} = \frac{\text{再集計値における平成24年の平均値}}{\text{既存公表値における平成24年の平均値}}$$

なお、上記接続方法を反映したC I一致指数及び遅行指数について、景気の山・谷への対応性や足元の動きなどに関するパフォーマンスをみると、前回公表値（平成30年11月分改訂）と比べて大きな変化はありません（参考1、2参照）。

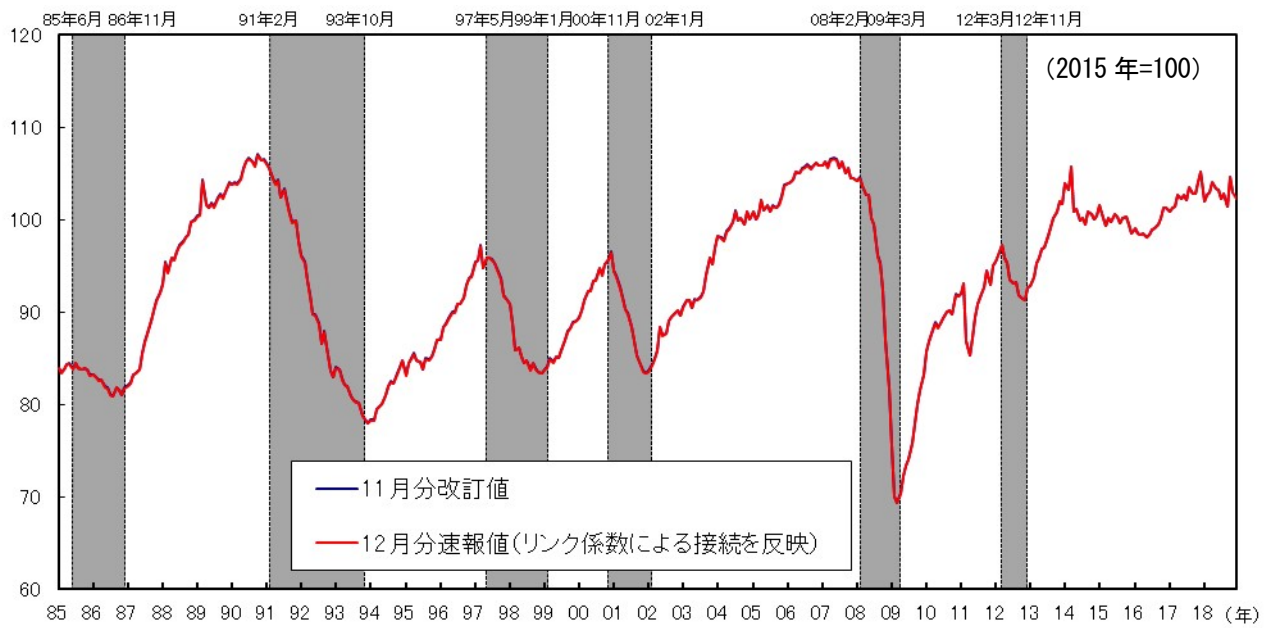
¹ Lg2 常用雇用指数（原数値の前年同月比、調査産業計、30人以上）については平成25年1月分以降の再集計値が公表されたため、再集計値と平成24年12月分以前の既存の公表値を単純接続した。

² 単純接続においては、平成24年1月分以降（Lg2 常用雇用指数については平成25年1月分以降）を再集計値で置き換えていた。

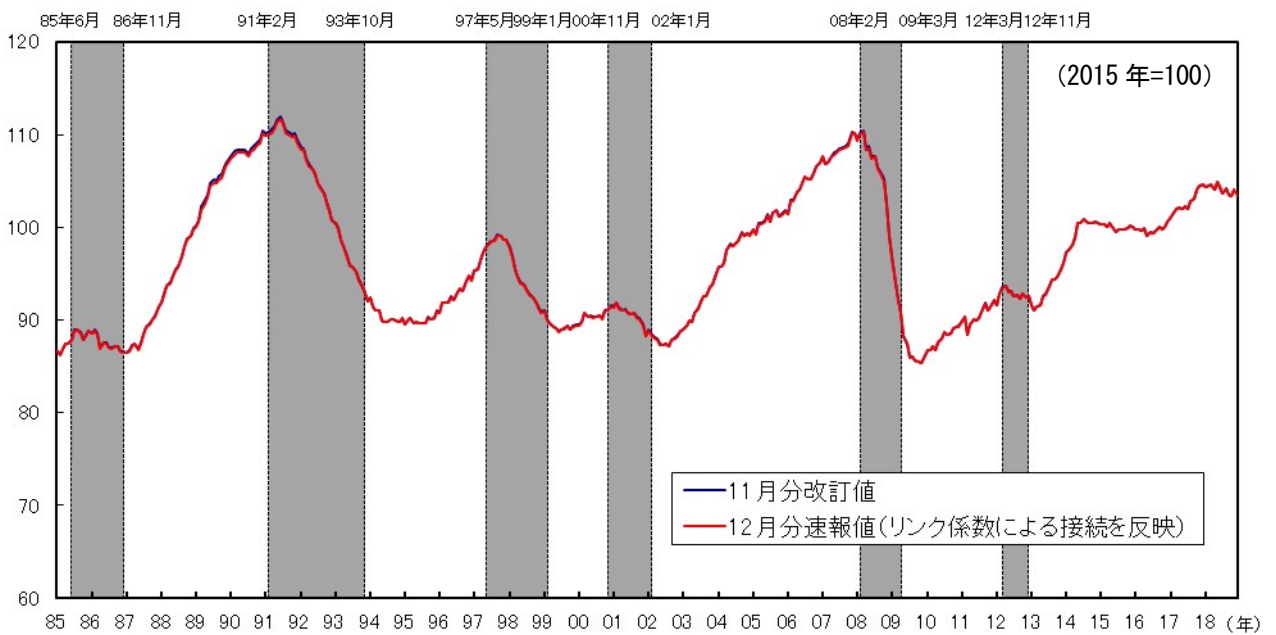
³ Lg2 常用雇用指数は平成25年1年間分のデータを使用。

⁴ Lg2 常用雇用指数は平成24年12月以前の値に乗じる。

<参考1> C I 一致指数 前回公表指数（平成30年11月分改訂）との比較



<参考2> C I 遅行指数 前回公表指数（平成30年11月分改訂）との比較



(注) シャドー部分は景気後退期を示す。

<参考3> 景気動向指数研究会委員（座長以外五十音順）

座長 吉川 洋 立正大学経済学部教授

刈屋武昭 城西国際大学特任教授

小峰隆夫 大正大学地域創生学部教授

嶋中雄二 三菱UFJモルガン・スタンレー証券（株）参与 景気循環研究所長

櫛 浩一 株式会社ニッセイ基礎研究所専務理事

福田慎一 東京大学大学院経済学研究科教授

美添泰人 青山学院大学経営学部招聘教授

以上